

第4回 「通じる？通じない？和製エレベーター英語」

こんにちは、ミスターEです。エレベーター用語の大半は英語から来ていますが、日本で変化したものもあります。今回はそれらにスポットライトを当ててみようと思います。

1. エレベーター用語

① 昇降路 = Shaft (シャフト) ?

アメリカのエレベーター業界の人は誰もシャフトとは言いません。Hoistway (ホイストウェイ) と言います。途中にスペースは入らず一つの単語で、HWと略します。直訳すれば巻き上げる道=昇降する路です。

日本では業界以外の人へはシャフトといったほうが通じやすいように、アメリカでもエレベーターに詳しくない人にはShaftと言った方が話がスムーズです。

通じるか？【通じる】



写真1 昇降路

② かご = Basket (バスケット) ?

「エレベーターが来た」といえば「かご」が来たことを通常意味します。代名詞のような言葉ですが、かごを直訳して「バスケット」とは言いません。アメリカではCar (カー) = 車と呼ばれています。日本人にはピンと

きませんが、人力のかごで運んでもらっていた文化と、車輪のついた馬車で馬力を使って移動していた文化では、発想の違いがあると推測しています。

アメリカではローラーガイドのついたかごが一般的ですから、車輪がついた四角い移動手段を「車」と呼ぶようになったとしたら納得です。英和辞典には、Car = 「エレベーターのかご」という意味もちゃんと載っています。

Cab (キャブ) と呼ばれることもありますが、タクシーの意味で聞くことが多い単語です。ニューヨークの正規のタクシーは黄色く塗られ、イエローキャブと言われるのは有名ですね。お客さんに呼ばれば、好きなタイミングで好きな場所(階)に行ってくれる乗り物だから、イメージと言葉がぴったり合います。

通じるか？【かろうじて通じる】



写真2 かご

③ 非常止め = Catch (キャッチ) ?

Catchとはもともと動いているものをつかまえる意味だそうです。走っているかごをガッチリつかまえるので通じそうに思えますが、なぜか通じません。ある日本の英文書類に非常止めのことをそのままCatchと書いてあるのを見かけたことがあります。プロの通訳さんであっても非常止めが何か知らなかったら訳すことは難しいの

読者からの寄稿 <<ミスターEのアメリカエレベーター情報>>

でしょう。技術にも語学にも精通するということはたいへんなことです。

アメリカではキャッチではなく、Safeties (セーフティーズ) と言います。複数形になっているのは非常止めのローラーやシューがかごの両側にあって、1つだけではないからです。訳せば安全です。ミスターオーチスによってキャッチの原型が発明され、「安全」になったからエレベーターはその後どんどん普及していったと聞きます。キャッチは私たちの業界の恩人ですね。

通じるか?【通じない】

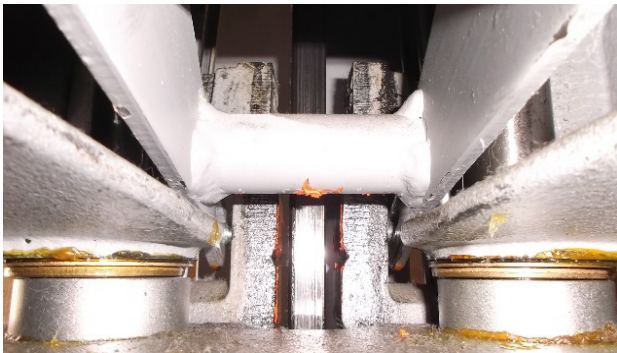


写真3 非常止め

④ ドアシュー = Door Shoe (ドアシュー) ?

ご存知の通り、ドアが外れないように敷居の溝にかませるくさび状のパーツです。アメリカではDoor Gib (ドアギブ) と呼ばれています。英語版のOutlookやWordでその単語を入力すると「そんな単語はない」とプログラムが判断し、赤い波線が下に引かれます。ギブは機械の専門用語のようです。

ドアが閉まるときに人や物が接触すると反転する装置は日本語と同じくSafety Shoe (セーフティーシュー) です。こちらは人の背丈以上の高さがある、靴のイメージからはほど遠いのにShoe (靴)。なのにドアに履かせる別名「戸の足」はギブ。逆のような気がします。ちなみに「ブレーキシュー」、「ガイドシュー」は英語でもそのまま同じです。

通じるか?【通じない】



写真4 ドアシュー

⑤ 移動ケーブル = Tail Cord (テールコード) ?

これはTraveling Cable (トラベリングケーブル) と呼ばれます。確かにいつもかごに連れ添って上へ下へと旅行してますよね。名前を聞くだけで楽しくなってきます。こんな夢のあるネーミングのセンスは大好き。でももしかするとTravelの意味が「旅行」しかないと思っている無知から来ているだけのことも。

ある辞典にはTravelの意味は動詞だけで12もありました。学生時代に英語の先生から言われませんでした? 「英単語の意味はひとつだけじゃない、なるべくたくさん覚えなさい」と。覚えられるわけないですよ、ふだん日本で英語は必要ないんだから…。

通じるか?【ジェスチャーを交えれば通じる】



写真5 移動ケーブル

⑥ つり合おもり = Balance Weight (バランスウェイト) ?

つり合おもりはCounterweight (カウンターウエイト) と呼ばれ単一の単語です。日本でも通じる言い方でそのまま読めばカウンターウエイトですが、アメリカ人

読者からの寄稿 <<ミスターEのアメリカエレベーター情報>>

の発音は「キャーナウェイ」と聞こえます。CWTと略します。

通じるか？【ほぼ通じる】



写真6 つり合おもり

⑦ バランスチェーン（ロープ）＝ Balance Chain?

これはCompensation Chain（コンペンセーション・チェーン）と呼ばれています。日本でコンペンチェーンと呼ばれるのはこの単語を略したものです。Compensationは埋め合わせという意味です。かごの位置によるメインロープの重量バランスの崩れを埋め合わせるチェーンですから、納得の表現です。

通じるか？【まず通じる】



写真7 バランスチェーン

⑧ 英語を通じさせるコツ

自分の経験から英語を伝わりやすくするコツをお教え

しましょう。絶対に通じると信じて大きい声で言うこと、たったそれだけです。話している途中で「この単語で正しかったっけ？」とか「文法が間違ってる気がする」などと思うと、自信のなさが声に表れます。その不安は的中し、だんだん相手の顔が「わからない」のメッセージを帯びてきます。逆に「なぜ自分の言うことがわからないんだ」というくらいのつもりで話してみてください。発音もアクセントもそんなに関係ありません。勢いのある声と「通じる」と思う気持ちだけです。

「コミュニケーションは言葉じゃない、通じると思えば言語は関係ない。」と聞いたことがあります。極端な例かもしれませんがベトナムでお土産物を売りにくる子供や大人たちにそれを試してみたことがあります。彼らにわかるはずのない日本語で熱く話しかけてみたところ、最初は困惑していましたがだんだんお互いが笑顔になり楽しくなってきました。お土産は一切買いませんでしたが、来る人来る人みんな友達になったように「またねー」と手を振って別れるハッピーな結末になったのです。言語がわからなくてもコミュニケーションは成り立つと確信できる出来事でした。

通じないのは自分の勉強不足と反省する日本人の美德。それは素晴らしいものですが、国際的ビジネスの世界では武器になりません。英語を母国語としていない他の国の人たちは、なまっているし、文法の間違い頻発ですがお構いなしです。堂々としているがゆえ、ネイティブスピーカーの側が一生懸命理解しようとしている気さえします。

見習うべきはタレントの出川哲朗さんでしょう。大間違い英語でもひるまず、最後には目的を達成します。ただ、大事な商談の時はちゃんと通訳さんを連れて行ってくださいね、責任持てませんから。

通じるか？【かならず通じます！】

2. 番外編

ミスターEが北米と現在の職場で経験した勘違い英語や、赤っ恥をかいた単語をご紹介します。

読者からの寄稿 <<ミスターEのアメリカエレベーター情報>>

① シュークリーム

職場にシュークリームを差し入れた時です。「シュークリームは好き？」と聞いたつもりで“Do you like shoe cream?”に妙な反応。「日本人はShoe creamを食べるのか？」それもそのはず、英語ではシュークリームは靴に塗るクリーム、靴墨のことだったのです。英語ではcream puff（クリームパフ）。反応したカナダ人の眉毛の形は今でも忘れません。

② マフラー

お客さんがバスの中にマフラーを忘れた時の事。電話で問い合わせるとスカーフならあるとの返事。「忘れ物はマフラーで、スカーフではありません。」「いや、マフラーは車の中にはないよ。スカーフはあった。」「いえ、女性用のスカーフではなく、男性用の緑色のマフラーです。」「あのねえ、マフラーは車の排気ガスが出るところの管。そんなものは車内に置き忘れないよ。」と教えてもらい初めて知りました。首に巻くマフラーは和製英語だったのです。正しくは scarf（スカーフ）、日本語で言う長いマフラーも主に女性が使うスカーフも、英語ではスカーフと呼ぶのです。職場の周りの人たちにも笑われ、その時の耳たぶの熱さは今も覚えてます。

③ キャンディ

チョコレートをお土産にしたら、後で「キャンディありがとう」と言われキョトンとしました。勘違いしているのだと思ったら、実は私の勘違い。日本ではキャンディとチョコは別物と思われていますが、アメリカではキャンディもチョコもあわせて「キャンディ」と呼びます。

④ ヒップ

おしりの肉の部分の部分を指して「僕はヒップが大きい」というとまた妙な反応。皆さんもおしり全体をヒップと言うと思いませんか？お尻の肉の部分はアスで、ヒップは腰の横の部分だけを言う単語だそうです。

⑤ 発泡スチロール

その単語を知らなかったのが漢字から英語をイメージ。泡だてているのだからバブル、スチロールはそのままだろうからと英語っぽく気取ってやってみました。「バボースティロール」まったく通じませんでした。後で実物を見せたらstyrofoam（スタイロフォーム）と言うのだとわかりました。これは知らなきゃ言い表せないでしょう。

⑥ 段ボール

これも知らないを通じさせるのが難しい単語です。ダンボールと思っていたのでこれも気取って「ダエンボウル」と言って通じませんでした。思いもつかないcard board（カードボード）が正解。これで通じます。

⑦ 砂漠のオアシス

「あなたは砂漠の中のオアシスみたいな人です」と感謝を伝えたくて“Oasis in the desert”（オアシス・イン・ザ・デザート）と言いました。まったくわかってもらえませんでした。これには2つの間違いがありました。オアシスではなくオエイシス、デザートはアクセントの位置が誤りだったのです。下線部のザにアクセントを置くのはスイーツのデザート、下線部のデにアクセントが砂漠。「オエイシス・イン・ザ・デザート」と言えば通じます。（砂漠=desert、スイーツ=dessert）

⑧ マジックテープ

最近日本でも多少聞くことが多くなってきましたが、英語ではVelcro tape（ヴェルクロテープ）です。

⑨ マジックインキ

「インキはインクだから間違えないぞ」とマジックインクと気取って言ったのに通じませんでした。これはPermanent marker（パーマネントマーカー）と言います。

こんなにもたくさん恥をかいてきましたが、ペラペラになるにはまだ「かき足りない」ようです。ではまた次回お会いしましょう！